

**PC 300GL**

SA88-6626-00  
(英文原典：01K4695)

**初期導入済みソフトウェアについて  
(Windows 98 モデル)**





**PC 300GL**

SA88-6626-00  
(英文原典 : 01K4695)

**初期導入済みソフトウェアについて  
(Windows 98 モデル)**

**IBM**

— お願い —

本書をお読みになり、本書がサポートする製品をご使用になる前に、必ず、23ページの付録A、『プログラムのご使用条件の表示』および25ページの付録B、『特記事項および商標』をお読みください。

## 第 1 版 (1998 年 11 月)

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミング、およびサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBMがこのようなIBM製品、プログラミング、およびサービスを、必ずしも日本で発表する意図であることを示すものではありません。

原 典： 01K4695  
IBM Personal Computer  
About Your Software  
Windows 98, Applications,  
and Support Software  
発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社  
担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1998.10

©Copyright International Business Machines Corporation 1998. All rights reserved.

Translation: ©Copyright IBM Japan 1998

# 目次

本書について .....	v
<b>第1章 ソフトウェアの概要 .....</b>	<b>1</b>
導入済みソフトウェア .....	1
すぐに導入できるソフトウェア .....	3
<b>第2章 始動 .....</b>	<b>5</b>
本製品の初めての始動 .....	5
始動する前に必要なこと .....	5
Windows 98 セットアップ・プログラムの実行 .....	6
IBM ウェルカム・センターの使用法 .....	7
アプリケーション導入プログラムの使用法 .....	8
オンライン・ブックの表示方法 .....	9
本体の電源切断 .....	9
<b>第3章 システム管理アプリケーション .....</b>	<b>11</b>
Norton AntiVirus for IBM .....	11
ConfigSafe .....	12
IBM Universal Management Agent .....	13
IBM Universal Management Agent の構成要素 .....	13
IBM Universal Management Agent Plus .....	14
IBM Universal Management Agent の導入 .....	15
<b>第4章 サポート CD の使用法 .....</b>	<b>17</b>
CD の機能 .....	17
CD の始動 .....	18
<b>第5章 IBM Product Recovery CD の使用法 .....</b>	<b>19</b>
オペレーティング・システムおよびサポート・ソフトウェアの回復 .....	19
始動順序の変更 .....	19
<b>第6章 その他のオペレーティング・システムの導入 .....</b>	<b>21</b>
<b>付録A. プログラムのご使用条件の表示 .....</b>	<b>23</b>
<b>付録B. 特記事項および商標 .....</b>	<b>25</b>
特記事項 .....	25
西暦 2000 年対応について .....	25
商標 .....	26



---

## 本書について

本書は、ご使用のコンピューター資料を補足するものです。今後参照するときのために、本書は他のコンピューター資料と一緒に保管しておいてください。

本書には、本製品に付属の初期導入済みソフトウェアとその他のソフトウェアについての一般情報が記載されています。

本書は、以下のような構成になっています。

- 第1章、『ソフトウェアの概要』には、本製品に付属の初期導入済みソフトウェアについての一般情報が記載されています。
- 第2章、『始動』には、本製品を初めて使用するとき役に立つ情報と、ソフトウェア機能のいくつかを理解するための情報が記載されています。
- 第3章、『システム管理アプリケーション』には、本製品に付属の追加ソフトウェアについての情報が記載されています。
- 第4章、『サポート CD の使用法』では、サポート CD で提供されるソフトウェアの導入または再導入について説明しています。
- 第5章、『IBM Product Recovery CD の使用法』には、オペレーティング・システムを復元するための *Product Recovery (プロダクト・リカバリー)* CD の使用法についての情報が記載されています。
- 第6章、『その他のオペレーティング・システムの導入』では、他のオペレーティング・システムおよびサポート・ソフトウェアの導入について説明しています。
- 付録A、『プログラムのご使用条件の表示』には、ユーザーのソフトウェア・ライセンスに関する情報が記載されています。
- 付録B、『特記事項および商標』には、法律上の特記事項および商標の情報が記載されています。





---

## 第1章 ソフトウェアの概要

本製品には、Microsoft®Windows® 98<sup>1</sup>、アプリケーション・プログラム、診断ツール、およびデバイス・ドライバーといったさまざまなソフトウェアが付属しています。これらのソフトウェアには、初期導入済みのもので、すぐに導入できるものがあります。これらのソフトウェア (Microsoft Windows 98 以外) は、「IBM プログラムのご使用条件 (保証適用外プログラム用)」のもとにライセンスを受けています。プログラムのご使用条件の表示については、本書の付録Aを参照してください。

---

### 導入済みソフトウェア

本製品には、マイ・コンピューター、マイ・ドキュメント、ネットワーク・コンピューター、The Microsoft Network のセットアップ、ごみ箱、ブリーフケース、およびオンライン・サービスなど、Windows 98 によって提供される標準のデスクトップ・アイコンがあります。そのほかに、本製品には、アクセサリ、スタートアップ、MS-DOS プロンプト、Windows エクスプローラーなど、Windows 「スタート」メニュー上の「プログラム」選択項目を通じてアクセスする標準の Windows 98 プログラム・グループが付属しています。これらのグループに関連するソフトウェアについての情報は、Windows 98 のマニュアルまたはオンライン・ヘルプを参照してください。

本製品には、Windows 98 以外に、下記のソフトウェアが初期導入済みです。

- 出荷時導入済みハードウェアのデバイス・ドライバー
- IBM ウェルカム・センター。ここを中心として、IBM 提供のソフトウェアの導入、日付と時刻の設定、オンライン・ブックの表示、サポート CD の始動、および IBM 製品とテクニカル・サポートについての情報が得られます。
- Internet Explorer 4.0。Internet Explorer を使用して、貴社のイントラネットまたは WWW 上をナビゲートして情報を検索することができます。

初期導入済みソフトウェアについての追加情報は、5ページの第2章、『始動』に記載されています。

---

<sup>1</sup> Microsoft Certificate of Authenticity は、本製品に導入されている Windows 98 ソフトウェアが Microsoft Corporation から合法的にライセンスを受けていることを保証するものです。

## 重要:

1. 初期導入済みソフトウェアのバックアップ・ディスクは、本製品には付属していません。ただし、サポート CD には IBM 初期導入済みプログラムとデバイス・ドライバーのほとんどが入っています。

さらにバックアップの目的で、Microsoft Windows 98 オペレーティング・システムおよび初期導入済みソフトウェアが、*Product Recovery CD* で提供されています。オペレーティング・システムまたは追加のソフトウェアを再導入する必要がある場合は、*IBM Product Recovery CD* および サポート CD を使用してください。(Windows 98 オペレーティング・システムおよび初期導入済みソフトウェアのディスクは、IBM から入手することはできません。) Windows 98 の再導入の詳細については、19ページの第5章、『*IBM Product Recovery CD* の使用法』を参照してください。

2. 更新されたデバイス・ドライバーなどは、WWW (<http://www.ibm.co.jp/download.html>) などでも入手できます。詳細は「IBM サービスのご案内」を参照してください。
3. ハード・ディスクは、複数のパーティションに分割されています。パーティション C には Windows 98 とその他の初期導入済みソフトウェアが入っています。それ以外のパーティションは、フォーマット済みですが、ファイルは入っていません。
4. できるだけ早いうちに、*IBM Enhanced Diagnostic* のディスクを作成してください。この起動可能なディスクを使用すれば、コンピューターに関する問題を特定できます。(ディスクの作成手順については、*ユーザズ・ガイド* を参照してください。)

---

## すぐに導入できるソフトウェア

IBM 導入済みのプログラムおよびデバイス・ドライバーに加えて、すぐに導入できるソフトウェアが、サポート CD、あるいは ハード・ディスク、またはその両方に提供されています。

注:

1. Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、および IBM Universal Management Agent は、すぐに導入できるソフトウェアとして、ハード・ディスクおよび サポート CD に入っています。ハード・ディスクからこれらのソフトウェアを導入する手順については、8ページの『アプリケーション導入プログラムの使用法』を参照してください。説明については、11ページの第3章、『システム管理アプリケーション』を参照してください。
2. 以下のリストは、サポート CD で提供されるソフトウェアの一部です。CD 上のソフトウェアは変更されることがあり、以下のリストとは異なる場合があることに注意してください。サポート CD には、Windows NT Workstation 3.51 と 4.0、Windows 95、および Windows 98 用のソフトウェアが収録されています。サポート CD についての詳細は、17ページの第4章、『サポート CD の使用法』を参照してください。

**CoSession** 手元の PC から別の場所にあるもう一台の PC を、モデムまたは LAN を経由して、自由に操作できるようにする「リモート・コントロール機能」を提供するソフトウェアです。

### IBM Global Network ダイアラー

このソフトウェアを使用すれば、IBM Global Network を通じてインターネットに接続することができます。

### IBM Netfinity サービス・プログラム

ハードウェアおよびソフトウェアに関する詳細な情報の表示、Desktop Management Interface (DMI) 情報のブラウズ、アラートのセットアップ、各種システム資源のモニター、および資産機密保護の管理を行うためのソフトウェアです。本製品が Netfinity Manager の導入されているネットワークに接続されている場合には、Netfinity Manager は資産管理のために情報を収集し、本製品の動作をモニターすることができます。

### Netscape Communicator

Netscape Communicator を使用して、貴社のイントラネットまたは WWW をナビゲートすることができます。Netscape Communicator は、電子メール、ニュース・グループ、および WWW の最新の機能のサポートを含む、ひととおりのインターネット機能を提供します。

一部のコンピューターには、i.Share および Ring Central プログラムを含む、追加のサポート・ソフトウェアが付属しています。

**i.Share** 1 台のサーバー上の単一のインターネット接続を、複数のクライアント・コンピューターで共用することを可能にするソフトウェアです。

**Ring Central**      Ring Central を使用して、FAX を送受信することができます。

すべてのオペレーティング・システムについてすべてのソフトウェアが利用できるわけではありません。ご使用のオペレーティング・システムにどのプログラムが利用できるか見付け出すには、サポート CD を参照してください。ハード・ディスク上に提供されているすぐに導入できるソフトウェアは、IBM ウェルカム・センターから導入することができます。7ページの『IBM ウェルカム・センターの使用法』を参照してください。

## 第2章 始動

この章は、本製品を初めて使用するとき役に立つ情報を記載しており、次のことを説明しています。

- コンピューターを初めて始動する前に必要なこと、および始動した後で起こること
- 以下の内容について
  - IBM ウェルカム・センターからの情報へのアクセス、および操作方法
  - Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe および IBM Universal Management Agent の導入とアクセス方法
  - オンライン・ブックの表示方法
  - コンピューターを安全に終了する方法

---

### 本製品の初めての始動

Windows 98 に初めてアクセスするときは、その前に Windows 98 セットアップ手順を完了しておく必要があります。

### 始動する前に必要なこと

Windows 98 セットアップ手順を始める前に、次のものを用意する必要があります。

- 本製品に付属の Windows 98 のマニュアル (この章に記載されている情報よりも詳細な情報が必要な場合)
- Microsoft Certificate of Authenticity (Windows 98 のマニュアルの表紙に添付されています) のプロダクト ID 番号
- ネットワーク管理者からのネットワーク情報 (該当する場合)
- プリンターのモデルと、プリンターが使用するポート (プリンターが本製品に直接接続されている場合)

## Windows 98 セットアップ・プログラムの実行

セットアップ・プログラムをまだ実行していない場合は、コンピューターを始動したときにセットアップ・プログラムが表示されます。プログラムは、必要に応じて、選択したり情報を入力するよう求めるプロンプトを出します。以下の注に示されている情報より詳細な情報が必要な場合は、Windows 98 のマニュアルを参照してください。

注:

1. セットアップ手順の中で、Windows 98 のライセンス条項を承諾することを示す必要があります。また、Certificate of Authenticity のプロダクト ID 番号の入力を求めるプロンプトが出されたら、その番号を入力する必要があります。Certificate of Authenticity は、Windows 98 のマニュアルの表紙に添付されています。
2. セットアップ手順が完了し、システムを再始動すると、Windows 98 のデスクトップが表示され、「Windows 98 へようこそ」ウィンドウが開きます。このウィンドウには、次の 5 つのオプションがあります。
  - 今すぐ登録: ご使用の Windows 98 ソフトウェアを Microsoft に登録したい場合には、このオプションをクリックします。(これを行うには、モデムが取り付けられている必要があります。)
  - インターネットへ接続: インターネット接続をセットアップしたい場合は、このオプションをクリックします。
  - Windows 98 について: 次の事項に関する情報にアクセスするためには、このオプションをクリックします。
    - コンピューター入門
    - Windows 98 の概要
    - Windows 98 の新機能
  - コンピューターのメンテナンス: 最適なパフォーマンスが得られるように本製品の設定を調整したり、あるいは定期的なメンテナンスを設定したい場合は、このオプションをクリックします。
  - IBM ウェルカム・センター: IBM ウェルカム・センターの機能を使用したい場合は、このオプションをクリックします。IBM ウェルカム・センターについて詳しくは、7ページの『IBM ウェルカム・センターの使用法』を参照してください。
3. ハード・ディスクは、複数のパーティションに分割されています。パーティション C には Windows 98 とその他の初期導入済みソフトウェアが入っています。それ以外のパーティションは、フォーマット済みですが、ファイルは入っていません。
4. できるだけ早いうちに、注 4 (2ページ) で説明している *IBM Enhanced Diagnostic* ディスクレットを作成してください。

---

## IBM ウェルカム・センターの使用方法

IBM ウェルカム・センターは、以下のことを行うための中心となる場所です。

- すぐに導入できる形式でハード・ディスク上に提供されている下記ソフトウェアの導入
  - Norton AntiVirus for IBM
  - ConfigSafe
  - IBM Universal Management Agent
- *IBM プログラムのご使用条件 (保証適用外プログラム用)* の表示
- 次のようなセットアップ作業の実行
  - 時刻と日付の設定
  - 使用環境を快適にするための情報の表示
- 次のようなオンライン・ブックの表示
  - 解説書
  - *Netfinity ユーザーズ・ガイド*
- サポート CD を使用した、追加ソフトウェア (たとえば、3ページの『すぐに導入できるソフトウェア』にリストされているもの) の導入

### IBM ウェルカム・センターへのアクセス方法

1. 「Windows 98 へようこそ」ウィンドウの「IBM ウェルカム・センター」オプションをクリックします。「Windows 98 へようこそ」ウィンドウが閉じている場合は、Windows 98 デスクトップの「IBM ウェルカム・センター」アイコンをダブルクリックすると、IBM ウェルカム・センターにアクセスできます。
2. IBM ウェルカム・センターを使用して作業を実行したり、情報を入手したりするためには、一般的に以下のように行います。
  - a. メイン・ウィンドウの左側にリストされているカテゴリーの 1 つをクリックします。
    - ようこそ
    - 始めに
    - オンライン・ライブラリー
    - システムのカスタマイズ
    - IBM サービスのご案内メイン・ウィンドウに、カテゴリー別の情報が表示されます。
  - b. メイン・ウィンドウでは、スクロールして、選択可能なトピックをクリックできます。(選択可能なトピックは、強調表示され、下線が付いています。)画面に指示が現れたときは、その指示に従います。

注:

1. この章には、IBM ウェルカム・センターから特定の作業を実行するための追加情報も記載されています。
2. IBM ウェルカム・センターの上部にある Microsoft Internet Explorer ツールバーの使用法については、Windows 98 のマニュアルまたはオンライン・ヘルプを参照してください。

---

## アプリケーション導入プログラムの使用法

ハード・ディスクに初期導入済みのアプリケーション導入プログラムを使用して、次のことが行えます。

- Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、および IBM Universal Management Agent の導入
- ハード・ディスクからのアプリケーション導入プログラムのアンインストール
- Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe および IBM Universal Management Agent についての情報の表示

注: アプリケーション導入プログラムは、サポート CD 上で使用することもできます。サポート CD の使用法についての情報は、第4章に記載されています。

アプリケーション導入プログラムを使用するには、次のように行います。

1. 「IBM ウェルカム・センター」ウィンドウで、「始めに」をクリックします。(IBM ウェルカム・センターへのアクセス方法については、7 ページを参照してください。)
2. 「アプリケーションの導入」セクションのアプリケーション導入プログラムの起動までスクロールしてクリックします。
3. ユーティリティー・プログラムのメニューが表示されたら、該当するボタンをクリックします。
  - a. Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、IBM Universal Management Agent を導入するためには「ソフトウェアの導入」ボタン。

これらの3つのアプリケーションに関する追加情報は、11ページの第3章、『システム管理アプリケーション』に記載されています。
  - b. これらのソフトウェア・プログラムのいずれかをアンインストールするためには「ハード・ディスクからこのユーティリティー・プログラムを削除」ボタン。
4. 作業を完了するために、該当する選択を行い、画面の指示に従います。



---

## オンライン・ブックの表示方法

オンライン・ブックを表示するためには、以下のことを行います。

1. 「IBM ウェルカム・センター」ウィンドウで、「オンライン・ライブラリー」をクリックします。
2. 表示したいオンライン・ブックの名前を選び、ダブルクリックします。

注: オンライン・ブックの一部は、PDF ファイルで提供されています。これらの PDF ファイルを閲覧するためには、Adobe Acrobat Reader が必要です。Acrobat Reader は、サポート CD から導入することができます。

---

## 本体の電源切断

まだ保存していないデータを失ったり、プログラムを損傷したりすることのないように、本体の電源を切るときには、必ず、次の終了手順を実行してください。

コンピューターを終了するためには、次のように行います。

1. 作業中のデータをすべて保存します。
2. 開いているアプリケーションをすべて終了します。
3. Windows の「スタート」ボタンをクリックします。
4. 「**Windows** の終了」をクリックし、「電源を切れる状態にする」が選択されていることを確認し、「OK」をクリックします。

次にコンピューターの電源を入れたときに、Windows 98 は、最後にコンピューターの電源を切ったときに開いていたウィンドウを復元します。



---

## 第3章 システム管理アプリケーション

ここでは、Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、および IBM Universal Management Agent プログラムについて説明します。

---

### Norton AntiVirus for IBM

Norton AntiVirus for IBM プログラムは、コンピューターからウィルスを検出して除去する総合的なウィルス対策プログラムです。Norton AntiVirus for IBM プログラムを導入するには、次のように行います。

1. 「IBM ウェルカム・センター」ウィンドウで、「始めに」をクリックします。関連情報が表示されます。
2. 「追加ソフトウェアの導入」セクションの「アプリケーション導入プログラムの起動」までスクロールして、クリックします。
3. メニューが表示されたら、「アプリケーションの導入」ボタンをクリックします。「導入の選択」ウィンドウで、「Norton AntiVirus for IBM」をクリックして、これを選択してください。
4. 「追加」ボタンをクリックして、タイトルを右側のパネルに移動します。その後「導入」ボタンをクリックします。

プログラムの導入後、その設定値を変更する、あるいは確認する場合には、次のように行います。

1. Windows の「スタート」ボタンをクリックします。
2. 「プログラム」、「Norton AntiVirus」の順に選択してから、「Norton AntiVirus」をクリックします。
3. 「Norton AntiVirus」ウィンドウで、「オプション」をクリックします。
4. 画面の上部にあるタブをクリックして、設定値に対して必要な変更を行います。変更内容を保存するためには、変更を行ったウィンドウごとに「OK」をクリックしてください。
5. 「Norton AntiVirus」のメイン・ウィンドウに戻り、「スケジューラ」をクリックします。設定を変更したい場合は、ウィンドウ内の変更したい設定値 (イベント) をダブルクリックして必要な変更を行って、「OK」をクリックしてください。
6. 新しいウィンドウが表示されます。なにか変更を行って、それを保存したい場合は、このウィンドウで「OK」をクリックしてください。

サポート文書はオンラインで提供されます。この文書にアクセスするには、Windows の「スタート」ボタンをクリックします。次に、「プログラム」、「Norton AntiVirus」、「Norton AntiVirus マニュアル」の順に選択し、「リファレンス・ガイド」または「ユーザーズ・ガイド」を選択します。(事前に、Adobe Acrobat を導入する必要があります。)

---

## ConfigSafe

ConfigSafe プログラムは、総合的なシステム構成情報の記録および回復のツールです。このプログラムは、デスクトップが損傷したり、使用できなくなったり、あるいはスタートできなくなった場合にユーザー（またはサポート担当員）がさらに簡単にシステムを復元できるようにする機能を提供します。

ConfigSafe プログラムの特長には、次のものがあります。

- メニュー方式のグラフィカル・インターフェース。
- スナップショット機能。この機能は、システム構成情報を定期的なスケジュールで自動的に取り込んで保存します。この情報には、システム・ファイル、ハードウェア構成、ファイルのバージョン、ネットワーク接続、レジストリー情報が含まれます。
- 構成復元機能。この機能を使用すると、ご使用のシステムを数秒で直前の（または出荷時導入済み）構成に復元することができます。
- UNDO 機能。この機能を使用して、最後に復元された変更を取り消して、直前の構成に戻すことができます。
- SOS (DOS 復元ユーティリティ) 機能。この機能を使用して、Windows 98 のデスクトップにアクセスできない場合にシステムを復元することができます。
- 基本システム構成に対して（意識的あるいは無意識に）行った変更の自動追跡。
- レポート機能。この機能を使用して、システム構成変更に関するレポートを生成（さらに表示または印刷）することができます。レポートは、ここ 1 週間以内に発生したか、あるいは出荷時導入済み構成以降の変更のリストなど、重要な情報を提供することができます。

これらのレポートは、システムのトラブルシューティングを行う上で役立ったり、問題を解決する際に役立てるためにサポート担当員が表示したり、fax で見るすることができます。

- リモート・アシスタンスを得るための他のプログラム（たとえば、CoSession）と一緒に稼働する能力。
- 時間のかかる作業（たとえば、構成情報のバックアップやデータの収集）の自動実行。
- ハードウェアまたはソフトウェア変更を行う前に現行のシステム設定値を取り込むための簡単な方法（ポイント&クリック）。この方法により、変更が行われたときに問題が発生した場合に即時に回復手段が提供されます。
- 特定のニーズを満足させるカスタマイズ可能な機能。

ConfigSafe は、特に新しいアプリケーションまたはアダプターを導入した後で問題が発生した場合に役立つトラブルシューティング用のツールです。システム構成を変更する前に、ConfigSafe を使用して現行の、稼働中の構成のスナップショットをとってください。そうしておく、コンピューターが構成ファイル内の変更によって使用不能になった場合にその構成に簡単に戻ることができます。

ご自分では問題を解決できず、システム管理者の援助が必要な場合には、ConfigSafe を使用して、最新の構成変更についてのレポートを生成してください。システム管理者は、このレポートに記載された情報を使用して、問題の解決に役立てることができます。

ConfigSafe プログラムを導入するためには、次のように行います。

1. 「IBM ウェルカム・センター」ウィンドウで、「始めに」をクリックします。関連情報が表示されます。
2. 「追加ソフトウェアの導入」セクションの「アプリケーション導入プログラムの起動」までスクロールして、クリックします。
3. メニューが表示されたら、「アプリケーションの導入」ボタンをクリックします。「導入の選択」ウィンドウで、「ConfigSafe」をクリックして、これを選択してください。
4. 「追加」ボタンをクリックしてタイトルを右側のパネルに移動します。その後「導入」ボタンをクリックします。

プログラムが導入された後でアクセスするためには、次のように行います。

1. 「スタート」ボタンをクリックします。
2. 「プログラム」、「ConfigSafe」の順に選択してから、「CONFIGSAFE」をクリックします。

サポート文書がオンライン・ヘルプ・システムに組み込まれています。オンライン・ヘルプにアクセスするには、Windows の「スタート」ボタンをクリックします。次に、「プログラム」、「ConfigSafe」、「CONFIGSAFE」の順に選択します。

---

## IBM Universal Management Agent

Universal Management Agent (UMA) プログラムは、ネットワーク環境内でコンピューターを管理するために設計されたツールの集合です。Universal Management Browser は、インターネットまたはイントラネット環境で ActiveX コントロールを使用して、中央インターフェースから各ツールを起動して管理します。これらのツールは、UMA プログラムが導入されているコンピューター上ではローカルで、また、UMA プログラムが導入されているコンピューターにアクセスするのにインターネットまたはイントラネットを使用した場合はリモートで使用できます。

### IBM Universal Management Agent の構成要素

IBM UMA プログラムの構成要素には、次のものが含まれています。

**System Monitors:** これには、イベント、事象、および応答 (EAR)、PC Health、BIOS エラー・ログ、イベント・ログ・ビューアーが含まれています。これらのプログラムを使用して、コンピューター・ハードウェアの状況の監視、システム・アラートに対する自動応答の設定、イベント

(たとえば、バックアップ操作) のスケジュール化、エラー、アラート、およびイベントの表示が行えます。

**Resource Utilization:** オーディオ、ドライブ、入出力ポート、メモリー、ネットワーク、システム資源、ビデオ、バッテリー (モバイル・コンピューターのみ)、キーボード、およびマウスに関する情報を収集します。

**Advanced Management Tools:** Desktop Management Interface (DMI) 情報にアクセスできるようにします。

**Inventory Data:** これには、基本ハードウェアに関する表示可能な情報、コンピューター要約報告書、ソフトウェア・インベントリ、オペレーティング・システムおよび関連デバイス・ドライバに関する情報、ならびに AssetCare 情報が含まれています。

**Configuration and Diagnostics:** これには、User Manager (UMA プログラムに関連付けられたセキュリティー機能の構成に使用される) が組み込まれています。

## IBM Universal Management Agent Plus

Universal Management Agent Plus (UMA Plus) は、UMA プログラムの機能を拡張するプラグイン・プログラムです。UMA Plus を導入する前に UMA プログラムを導入しておく必要があります。UMA Plus は、UMA セットアップに以下のプラグインを追加します。

**SMART Reaction** は全機能のバックアップ、復元、およびミラーリング・プログラムです。このプログラムを使用して、日常の、スケジュールされたバックアップおよびミラーリング操作を実行するか、SMART ハード・ディスクからの Predictive Failure Analysis アラートによって起動される緊急バックアップまたはミラーリング操作を実行することができます。

**EZ Admin** は、オペレーティング・システムの機能を隠すか、使用不可にするか、あるいは特定のプログラムへのユーザーのアクセスを制限することによって、ユーザーが引き起こす問題に関連する管理コストを削減します。

**CoSession Remote for UMA** は、ネットワーク管理者およびその他のユーザー・サポート要員が、モデムまたはネットワークのいずれかを通じてのインターネットまたはイントラネット接続を使用して、UMA インターフェースを介して第 2 のコンピューターをアクセスまたは制御するのに使用することができるプラグインです。CoSession Remote では、プログラムの実行、コンピューターの再構成、およびリモートからのソフトウェア更新を行うことができます。(CoSession Remote は サポート CD にも個別に導入可能なプログラムとして収録されていません。)

**PC-Doctor for UMA** は、主なコンピューター構成要素に対する診断テストを実行するのに使用することができる診断ツールです。PC-Doctor for UMA により、診断テストをインターネットまたはイントラネットを通じてローカルまたはリモートで実行することができます。

UMA プログラムは、IBM Netfinity Manager などのサーバーをベースとする管理プログラム、Tivoli TME 10、Tivoli NetView、および Microsoft System Management Server (SMS) などのエンタープライズ管理システム、および Microsoft Management Console (MMC) にも統合することができます。さらに、UMA プログラムを構成して、シンプル・ネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップを、Microsoft SMS、Tivoli NetView、および Computer Associates Unicenter などのワークグループ・レベルおよび企業レベルのネットワーク管理アプリケーションに転送することもできます。

UMA および UMA Plus の詳細、または最新情報については、それぞれ下記 Web サイトを参照してください。

<http://www.ibm.co.jp/pc/desktop/uma>

<http://www.ibm.co.jp/pc/desktop/umaplus>

## IBM Universal Management Agent の導入

UMA プログラムは、ハード・ディスク、サポート CD、または WWW から導入することができます。UMA Plus は、サポート CD または WWW からのみ導入することができます。

UMA プログラムおよび UMA Plus プログラムの導入についての情報は、それぞれのソフトウェアのインストール・ガイドを参照してください。これらのガイドはオンライン・ブックとして提供されています。これらのオンライン・ブックを表示するには、9ページの『オンライン・ブックの表示方法』を参照してください。

IBM UMA プログラムの導入後にこれにアクセスするには、次のように行います。

1. Windows の「スタート」ボタンをクリックします。
2. 「プログラム」、「**IBM System Management Tools**」の順に選択して、必要な選択項目をクリックします。

オンライン・ヘルプを表示するためには、Windows の「スタート」ボタン、「プログラム」、「**IBM System Management Tools**」の順にクリックします。画面の右のプルダウン・メニューに、DMI および MIF ブラウザーのメニュー項目に組み込まれているサポート文書が示されています。





## 第4章 サポート CD の使用法

サポート CD からデバイス・ドライバーやその他のソフトウェアを導入または再導入する場合には、この章を参照してください。

### CD の機能

サポート CD には、各種のオペレーティング・システム環境のためのデバイス・ドライバー、およびその他のサポート・ソフトウェアが含まれています。

注: すべてのオペレーティング・システムについてすべてのソフトウェアが提供されているわけではありません。ご使用のオペレーティング・システム用に提供されているプログラムを表示するには、サポート CD を参照してください。

#### 重要

サポート CD には、オペレーティング・システムは含まれていません。この CD は、お使いのオペレーティング・システムが本製品にすでに導入されていないと、使用できません。

この CD を使用して、次のことができます。

- CD-ROM ドライブが装備されたモデルへの、CD から一部のアプリケーションの直接導入。
- サポート CD にあるソフトウェア製品のローカル・エリア・ネットワーク (LAN) イメージを作成し、LAN ディスクから製品を導入する。
- CD から導入できないソフトウェア製品のディスクットを作成して、ディスクットから製品を導入する。

CD にあるユーティリティー・プログラムには、使いやすいグラフィカル・インターフェースと、ほとんどの製品の自動導入手順が備わっています。またユーティリティー・プログラムには、ヘルプ・システムと、ユーティリティー・プログラムの機能、CD から導入できるソフトウェア製品、およびそれらの製品がサポートする操作環境について説明している総合的な概要も用意されています。

サポート CD に入っている製品は、IBM ウェルカム・センターの中の「IBM プログラムのご使用条件 (保証適用外プログラム用)」の条件でライセンスを受けています。(23ページの付録 A、『プログラムのご使用条件の表示』を参照してください。)

---

## CD の始動

サポート CD のソフトウェアを導入したり、関連するデバイス・ドライバやプログラムについての概要を表示したりするには、以下の手順を実行します。

1. CD-ROM ドライブに サポート CD を挿入します。
2. CD を始動します。Windows 98、Windows 95 または Windows NT 4.0 のデスクトップで、**IBM** ウェルカム・センターをダブルクリックし、「システムのカスタマイズ」をクリックして、「サポート CD の起動」をクリックします。

あるいは

お使いのオペレーティング・システムに応じて、下記の手順で CD を開始します。

- Windows 98、Windows95 または Windows NT 4.0 の場合:  
Windows の「スタート」ボタンをクリックし、次に「ファイル名を指定して実行」をクリックしてから次のように入力します。

e:¥ibmsetup

(ここで、e: は、CD-ROM ドライブ名です。) **Enter** を押します。

- Windows NT 3.51 の場合:  
Windows のプログラム・マネージャーのパネルから、メニュー・バーの「アイコン」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックしてから、次のように入力します。

e:¥ibmsetup

(ここで、e: は、CD-ROM ドライブ名です。) **Enter** を押します。

3. メイン・メニューが表示されたら、希望のオプションを選択して、その後は画面の指示に従います。

プログラムの導入が終わったら、スタート・メニューのプログラム選択項目からプログラムにアクセスできます。ほとんどのプログラムでは、サポート資料がオンライン・ヘルプに組み込まれています。また、オンライン資料が提供されているものもあります。

---

## 第5章 IBM Product Recovery CD の使用法

IBM *Product Recovery* CD が本製品とともに提供されているので、ハード・ディスク障害または Windows 98 ファイルへのその他の損傷が生じたような場合に、Windows 98 および初期導入済みアプリケーションとデバイス・ドライバーを再導入することができます。

注意: 回復プロセスは、1 次区画 (ドライブ C) に保管されたすべての情報を削除します。可能な場合は、このプロセスを開始する前に、データをバックアップしておいてください。

1 次区画が FAT16 または FAT 32 である場合は、Windows 98 用の *Product Recovery* CD は正しく動作します。1 次区画が FAT16 または FAT32 でない場合は、区画が無効で FDISK コマンドを使って再区分する必要があるという旨のメッセージが表示されます。

*Product Recovery* CD 上で FDISK コマンドを実行するには、コマンド・プロンプトで FDISK と入力します。1 次区画を削除し、*Product Recovery* CD を CD-ROM ドライブに入れたままにし、コンピューターを再始動します。*Product Recovery* CD はハード・ディスクを正しく区分します。

---

### オペレーティング・システムおよびサポート・ソフトウェアの回復

出荷時導入済みオペレーティング・システムおよびソフトウェアを回復するには、次のステップに従ってください。

1. 構成ファイルおよびご自分で作成したファイルのバックアップ・コピーを作成します。バックアップを作成していないファイルはすべて、失われます。
2. CD-ROM ドライブに *Product Recovery* CD を挿入します。
3. コンピューターを再始動し、画面に表示される指示に従います。この CD からコンピューターが始動しない場合は、始動順序を変更する必要があります。(『始動順序の変更』を参照してください。)
4. 回復が完了したら、*Product Recovery* CD を取り出して、コンピューターを再始動します。
5. 始動順序を変更した場合は、必ず、元に戻してください。

---

### 始動順序の変更

コンピューターがこの CD から始動しない場合は、装置構成ユーティリティーで始動順序を変更する必要があります。次のステップに従って、始動順序を変更してください。

1. コンピューターを再始動します。

2. 装置構成ユーティリティのプロンプトが画面に表示されたら、**F1** を押します (装置構成ユーティリティのプロンプトは、数秒間しか画面に表示されません。**F1** は、素早く押してください。)
  3. 装置構成ユーティリティ・メニューから「始動オプション」を選択します。
  4. 「始動オプション」メニューから「始動順序」を選択します。
  5. 画面に表示された始動順序を書き留めます。この情報は、回復処理を完了した後で元の始動順序を復元するのに必要となります。
  6. 「基本の始動順序」の「主始動デバイス」を CD-ROM ドライブに変更します。
  7. 装置構成ユーティリティ・メニューに戻るまで **Esc** を押します。
  8. プログラムを終了する前に、装置構成ユーティリティ・メニューから「設定を保存する」を選択し、**Enter** を押してください。
  9. 装置構成ユーティリティを終了するためには、**Esc** を押して、画面の指示に従います。
- 注: *Product Recovery* CD を使い終わったら、必ず、元の始動順序を復元してください。

---

## 第6章 その他のオペレーティング・システムの導入

Windows NT Workstation 4.0 または 3.51、あるいは Microsoft Windows 98 または Windows 95 の導入または再導入を行う場合は、ソフトウェアまたはデバイス・ドライバが必要になることがあります。ハードウェア特有のソフトウェアは、サポート CD に収められています。(サポート CD に収録されているデバイス・ドライバにアップデートがあった場合には、WWW の <http://www.ibm.co.jp/download.html> から入手可能となります。)

オペレーティング・システムを導入するにあたっては、前もって、最新のフィックス・パックや CSD などを入手しておいてください。オペレーティング・システムの製造元に問い合わせるか、または、可能であれば、製造元の Web サイトを調べて、それらを購入してください。

オペレーティング・システムを導入するには、オペレーティング・システムおよびフィックス・パックや CSD (ある場合) に付属の資料を参照してください。次に、17ページの第4章、『サポート CD の使用法』を参照して、デバイス・ドライバ等を導入してください。

注: すべてのオペレーティング・システムについてすべてのソフトウェアが提供されているわけではありません。ご使用のオペレーティング・システム用に提供されているプログラムを表示するには、サポート CD を参照してください。



---

## 付録A. プログラムのご使用条件の表示

「IBM プログラムのご使用条件 (保証適用外プログラム用)」は、初期導入済みソフトウェアの IBM ウェルカム・センターで見ることができます。プログラムのご使用条件を見るには、次のことを行ってください。

1. デスクトップから、「**IBM** ウェルカム・センター」をダブルクリックします。
2. 「**IBM** プログラムのご使用条件 (保証適用外プログラム用)」アイコンをクリックします。

「IBM ウェルカム・センター」を削除している場合は、サポート CD から IBM ユーティリティを再導入すれば、参照することができます。詳細については、17ページの第4章、『サポート CD の使用法』を参照してください。





## 付録B. 特記事項および商標

この付録には、IBM 製品の可用性、特許、および出願中の特許のほか、商標情報の法的な特記事項が記載されています。

### 特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31  
AP事業所  
IBM World Trade Asia Corporation  
Intellectual Property Law & Licensing

本書で紹介している IBM 以外の Web サイト・アドレスは、お客様の便宜のために記載しており、IBM がこれらのサイトを推奨することを意味するものではありません。IBM は、本書で紹介する IBM 以外の Web サイトまたは IBM Web サイトのリンクを通じてアクセスする他の Web サイトの内容または使用に関して一切責任を負いません。

### 西暦 2000 年対応について

製品の西暦 2000 年対応 (Year 2000 Ready) とは、その製品を関連資料にしたがって使用した場合に、20 世紀から 21 世紀にわたる日付データの処理、引き渡し、または受け取りが正しく行われることをいいます。ただし、その製品とともに使用されるすべての製品（例えば、ハードウェア、ソフトウェアおよびファームウェア）が正確な日付データをその製品と正しく交換できることが条件となります。

この IBM 製のパーソナル・コンピューターは、西暦 2000 年対応の製品です。ただし、西暦 2000 年になる時に、このコンピューターの電源が立ち上がっている場合、一度電源を落とし、再度

立ち上げるか、オペレーティング・システムを再起動してください。これにより、このコンピューターの内部クロックがリセットされます。

なお、お客様が、西暦 2000 年対応でないソフトウェアを使用される場合、または、処理するデータが西暦 2000 年対応でない場合には、この IBM パーソナル・コンピューターは、正しく日付データを処理することはできません。なお、この製品の西暦 2000 年対応状況についてのご説明は、ハードウェア製品のみにも適用されるものであり、ハードウェアとともに提供されるソフトウェアの対応状況を示すものではありません。IBM は、他社製ソフトウェアの日付処理について責任を負いません。他社製ソフトウェアの日付処理、その制約または更新版については、他社製ソフトウェアの提供元にお問い合わせください。

西暦 2000 年の概要および IBM 製のパーソナル・コンピューターの 2000 年対応状況については、IBM Year 2000 Web サイト (<http://www.ibm.co.jp/ad2000>) でご覧いただくことができます。お客様の西暦 2000 年対応作業をご支援するための情報およびツールが含まれており、情報は必要に応じ更新されます。

---

## 商標

次の用語は、米国およびその他の国における IBM 社の商標です。

Alert on LAN	PC 300
HelpCenter	Predictive Failure Analysis
IBM	SMART Reaction
IBM Global Network	Universal Management Agent
Netfinity	Wake on LAN
Netfinity Manager	

Microsoft、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Lotus SmartSuite は、米国およびその他の国における Lotus Development Corporation の商標です。

Tivoli は、米国およびその他の国における Tivoli Systems, Inc. の商標です。

Intel および LANdesk は、Intel Corporation の登録商標です。

他の会社名、製品名、サービス名は、他社の商標またはサービス・マークである場合があります。





Printed in Japan

1998年11月

日本アイビーエム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12



SA88-6626-00

**Artwork Definitions**

<b>id</b>	<b>File</b>	<b>Page</b>	<b>References</b>
COV	D4BK3SET	i	i

**Headings**

<b>id</b>	<b>File</b>	<b>Page</b>	<b>References</b>
ABOUT	D4BK3PRF	v	本書について
CH1	D4BK3CH1	1	第1章, ソフトウェアの概要 v
RTISL	D4BK3CH1	3	すぐに導入できるソフトウェア 7
CH2	D4BK3CH2	5	第2章, 始動 v, 1
START	D4BK3CH2	5	本製品の初めての始動
UWC	D4BK3CH2	7	IBM ウェルカム・センターの使用法 4, 6
RTCHD	D4BK3CH2	8	アプリケーション導入プログラムの使用法 3
BOOKS	D4BK3CH2	9	オンライン・ブックの表示方法 15
SHUTD	D4BK3CH2	9	本体の電源切断
CH3	D4BK3CH3	11	第3章, システム管理アプリケーション v, 3, 8
ANTIV	D4BK3CH3	11	Norton AntiVirus for IBM
CFS	D4BK3CH3	12	ConfigSafe
UMA	D4BK3CH3	13	IBM Universal Management Agent
UMAC	D4BK3CH3	13	IBM Universal Management Agent の構成要素
SSCD	D4BK3CH4	17	第4章, サポート CD の使用法 v, 3, 8, 21, 23
PRCD	D4BK3CH5	19	第5章, IBM Product Recovery CD の使用法 v, 2
CBIOS	D4BK3CH5	19	始動順序の変更 19
IOS	D4BK3CH6		

		21	第6章, その他のオペレーティング・システムの導入 v
APA	D4BK3APA	23	付録A, プログラムのご使用条件の表示 ii, v, 1, 17
APB	D4BK3APB	25	付録B, 特記事項および商標 ii, v

<b>List Items</b>
-------------------

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
REI	D4BK3CH1	2	1
DISKS	D4BK3CH1	2	4
			6
WCC1	D4BK3CH2	7	2a
WCC2	D4BK3CH2	7	2b
ST1	D4BK3CH2	8	1
RTCUC	D4BK3CH2	8	3
IA	D4BK3CH2	8	3a
ST4	D4BK3CH2	8	4

<b>Revisions</b>
------------------

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
1	D4BK3SET	i	
2	D4BK3SET	i	
4	D4BK3SET	i	

<b>Spots</b>
--------------

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
RM	D4BK3CH2	6	(no text)
AWC	D4BK3CH2	7	(no text)
		8	
USIP	D4BK3CH2	8	(no text)
IRI	D4BK3CH5	19	(no text)
EDNOT	D4BK3APA	23	(no text)

<b>Processing Options</b>
---------------------------

Runtime values:

```

Document fileid ..... D4BK3BAS SCRIPT
Document type ..... USERDOC
Document style ..... AYS
Profile ..... EDFPRF40
Service Level ..... 0028
SCRIPT/VS Release ..... 4.0.0
Date ..... 98.10.30
Time ..... 16:21:42
Device ..... PSA
Number of Passes ..... 2
Index ..... YES
SYSVAR G ..... INLINE
SYSVAR X ..... YES
  
```

Formatting values used:

```

Annotation ..... NO
Cross reference listing ..... YES
Cross reference head prefix only ..... NO
Dialog ..... LABEL
Duplex ..... YES
DVCF conditions file ..... (none)
DVCF value 1 ..... (none)
DVCF value 2 ..... (none)
DVCF value 3 ..... (none)
DVCF value 4 ..... (none)
DVCF value 5 ..... (none)
DVCF value 6 ..... (none)
DVCF value 7 ..... (none)
DVCF value 8 ..... (none)
DVCF value 9 ..... (none)
Explode ..... NO
Figure list on new page ..... YES
Figure/table number separation ..... NO
Folio-by-chapter ..... NO
Head 0 body text ..... (none)
  
```

Head 1 body text .....	第
Head 1 appendix text .....	付録
Hyphenation .....	NO
Justification .....	NO
Language .....	JAPA
Keyboard .....	395
Layout .....	1
Leader dots .....	YES
Master index .....	(none)
Partial TOC (maximum level) .....	(none)
Partial TOC (new page after) .....	PAGE
Print example id's .....	NO
Print cross reference page numbers .....	YES
Process value .....	(none)
Punctuation move characters .....	(none)
Read cross-reference file .....	(none)
Running heading/footer rule .....	NONE
Show index entries .....	NO
Table of Contents (maximum level) .....	3
Table list on new page .....	YES
Title page (draft) alignment .....	RIGHT
Write cross-reference file .....	(none)

<b>Imbed Trace</b>
--------------------

Page 0	D4BK3SET
Page i	D4BKCOPY
Page iii	D4BK3PRF
Page vi	D4BK3CH1
Page 4	D4BK3CH2
Page 9	D4BK3CH3
Page 15	D4BK3CH4
Page 18	D4BK3CH5
Page 20	D4BK3CH6
Page 22	D4BK3APA
Page 23	D4BK3APB
Page 25	WEBINFO
Page 25	E1D92000
Page 26	E1D9IBMT
Page 26	E1D9GENT
Page 28	D4BK3DTE